

「美智久」の枝肉成績等

「美智久」号の産子23頭を畜産試験場、上場営農センターで肥育して枝肉重量や肉質を調査したところ、これまでの県産種雄牛において去勢・雌平均で枝肉重量は歴代1位、ロース芯、バラ厚、歩留、BMS、MUFA※は歴代2位の成績でした。

表1 枝肉成績

性別	種雄牛	頭数	枝肉重量 (kg)	ロース芯面積 (cm ²)	バラの厚さ (cm)	皮下脂肪厚 (cm)	歩留まり基準値 (%)	脂肪交雑 BMSNo.	MUFA含有率 (%) ²⁾
去勢	美智久	11	552.0	73.3	8.7	2.4	75.7	9.9	58.1
	県産素牛 ¹⁾	2,757	516.3	71.9	8.4	2.2	75.8	9.3	-
雌	美智久	12	513.0	77.7	8.6	3.4	75.8	10.1	62.0
	県産素牛 ¹⁾	2,157	464.8	69.3	8.0	2.7	75.8	8.9	-
去勢・雌平均	美智久	23	532.5	75.5	8.65	2.90	75.8	10.0	60.0

1) 県産素牛は佐賀県で生まれ令和7年度に出荷された肥育牛の平均

2) MUFA含有率の数値については畜産試験場及び上場営農センター調査の去勢10頭、雌7頭の数値。

※ MUFAとは…日本語で「一価不飽和脂肪酸」と呼ばれ、オレイン酸を含む一価不飽和脂肪酸が多い脂肪は体温よりも低い温度で溶けるため、多く含まれるほど口当たりが良いとされています。



写真：「美智久」号産子の枝肉断面

出荷者：上場営農センター
 性別：去勢
 格付：A5
 枝肉重量：613.0kg
 ロース芯面積：88cm²
 BMS：12
 血統：美智久-華春福-喜亀忠

【用語の説明】

1. 種雄牛とは、肉量や肉質など優れた産肉能力を持つ雄牛のこと。和牛の育種改良に重要な役割を果たしており、精液を採取・凍結して、人工授精に使われる。
2. 佐賀県和牛改良検討会とは、本県和牛の改良方向を協議する会議であり、学識経験者や農業団体、農家代表者、県等で構成される。
3. ゲノム育種価とは、個体から子へ確実に伝えることのできる遺伝的能力を DNA 情報等から数値化する方法である。
4. 枝肉重量とは、牛の生体を解体処理する際に頭や皮、内臓などを取り除いた枝肉の重量で、黒毛和牛の場合一頭分で約 400～600kg で、大きい方が望ましい。
5. ロース芯面積とは、枝肉にした時のロースの部分の大きさで、大きい方が望ましい。
6. バラの厚さとは、枝肉にした時のバラの厚さ。カルビ等になり大きい方が望ましい。
7. 皮下脂肪厚とは、枝肉にした時の皮下脂肪の厚さで、薄い方が望ましい。
8. 歩留まり基準値とは、枝肉から取れる部分肉重量の割合予測値のこと。この値により A、B、C の 3 段階に分けられ、歩留基準値 72 以上を A 等級、69 以上 72 未満を B 等級、69 未満を C 等級と示す。
9. BMS No. とは、肉質の評価で重要とされる指標。霜降りの度合いにより、BMS 値 (Beef Marbling Standard) で 12 段階に区分される (下図参照)。

肉質等級	5					4			3	2	1	
脂肪交雑 BMS値	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
ブランド区分	← 佐賀牛 →						← 佐賀産和牛 →					

※図：JAさががHPより抜粋